

読谷コミュニティー を世界へ

株式会社FMよみたん
代表取締役社長

仲宗根 朝治



読谷村内ラジオ聴取率83.7%のFMよみたんが、今年4月テレビスタジオを開設しました。

『100年残す事業を』と、平成20年8月読谷村のむらおこし塾生が中心となり、行政職員を含む41名の株主により資本金1550万で起業した株式会社FMよみたんは、当時42歳で失業中の読谷村出身わたくし仲宗根朝治が代表を務めました。あれから8年、2年ごとの株主総会で重任を承認され社長職を務めさせて頂いています。

総務省の認可を受け運営する放送局と、それを営業管理する会社の両輪、放送局長と社長の兼任は設立当初はかなり大変でした。開局時は時折、機材の不具合が出るとスタジオに泊り込んで放送したり、資本金が3ヶ月で底を付こうとする状態……

しかし、取締役でもある先輩方やスタッフのお陰と、旅行業時代の営業経験が功を奏し徐々に好転、スポンサー売上も少しずつだが伸ばす事ができました。しかし難関は続き営業中に地域の人からは電波が届かない！ラジオが聞こえない！などクレームがありました。そうです、コミュニティ放送局の営業の壁と言われる電波出力「20ワット」の弱さを痛感します（ちなみに県全域局は1000ワット）。その逆風と多くの方々の協力を活かし、読谷が誇る世界遺産座喜味城跡とおよそ同等の高さである、海拔155メートルのN

TTドコモタワーへ不可能と言われたが、アンテナ移設を実現しました。今では村内のみならず沖縄本島中南部でも聴くことが出来るようになっていきます。

FMよみたんは24時間放送、番組を担当するパーソナリティーはボランティアで約150名、それぞれが個性を活かし楽しい番組を放送しています。イベント中継などは大型の中継車を活用し、音声のみならず映像も会場から生放送でネット配信しその価値を高めています。ホームページの動画サイトや専用のアプリで見ることが出来ます。また、SNSなどの活用が、これからの時代には必要不可欠で、情報発信の重要性を実感しています。このようにしてFMよみたんはラジオで地域へ、インターネットでは世界へ同時配信しています。しかし音声のみの放送にはおのずと限界があり、その点で映像は情報量も多く英語を超える世界共通の言語です。スマホ世代が制覇するこの世界に、できるだけスピーディーにローカルの情報を映像で届けるようにならないければ時代の波に乗れません。

また防災情報番組も週一回あり、特に災害時は24時間体制で行政や警察、消防のほか沖縄電力・沖縄気象台や那覇海上保安部などと協力体制を整えています。ニッチな情報が配信できるメディアが必要であり、必要な情報は地域を超えて求められる、それは日常から目的やニーズに応じ

た情報を発信し続けなければ非常時には選ばれないと考えています。

また、観光客向けの情報番組を毎朝9時から1時間365日放送し、さらには新設されたテレビスタジオより、読谷村のコアな情報を平日の夕方6時に生放送でラジオと同時配信しています。近い将来には映像での観光情報を提供し増え続ける外国人入域客に言語を超えて、安全で安心な沖縄の旅をサポート出来る一助になりたいと思います。

今年6月『読谷村ふるさと納税寄付者への返礼品事業』を弊社が委託を受けました。これにより行政や地域の事業者とより一層絆が深まり、地域の活性化に微力ながら寄与することが出来るかと確信しています。また映像事業を活用し一次産業のトレーサビリティーなどを動画で情報配信を行い、おじいおばあが作った野菜や読谷で獲れた魚などを、ラジオとネットでの販売を可能にし『読谷ファン』という目的をもったコミュニティを県内のみならず全世界に広めていきたいと考えています。

新たな拠点『読谷村地域振興センター』により、あらゆる媒体での情報発信を行い、多様な情報を多重に伝えることが出来る次代を見据えた『沖縄西海岸メディアステーション』に生まれ変わりました。コミュニティの形容は『地域』から『目的』に変わると考え、ローカルをグローバル化し、さらに進化するFMよみたんに御期待ください。